

新進音楽家の若き才能の輝きを見つけ
人材の育成とクラシック音楽の啓発を目的とするコンクール

第28回

コンセール・マロニエ21

Concert. 21 Marronnier

音楽コンクール

対象部門 弦楽器

本選



第23回(弦楽器) 第1位 水野優也

2024年

10月25日(金) 12:30開場・13:00開演
16:05結果発表・表彰式 (予定)

栃木県総合文化センター メインホール

主催 公益財団法人とちぎ未来づくり財団・栃木県



第28回

コンセール・マロニエ21開催に寄せて

栃木県知事メッセージ

「第28回コンセール・マロニエ21」の本選が盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

「コンセール・マロニエ21」は、若き演奏家を発掘し、今後の活躍を奨励することを目的とするもので、今年で28回目の開催となります。全国から才能あふれる新進音楽家の皆様を、ここ「とちぎ」の地にお迎えして開催できることは大きな喜びであり、日頃の御努力とその成果の発表に心から敬意を表します。

また、栃木県が全国に誇る文化事業である本コンクールを主催する公益財団法人とちぎ未来づくり財団並びに快く審査をお引き受けいただいた審査員長の沼野雄司先生をはじめ、わが国音楽界の第一線で御活躍される審査員の皆様に厚く御礼申し上げます。

本県では、心豊かな県民生活と活力ある地域社会の実現に向け、「栃木県文化振興基本計画（第2期）」において、「とちぎの文化を担う人づくり」を重要な柱のひとつとして掲げ、各種施策を積極的に展開しているところであります。全国から多くの参加者を得て開催する本コンクールは、正に、次代のクラシック音楽界を担う人材を育成するものであり、本県文化の振興を図る上で大変意義のあるものと考えております。

本日御参加いただいた皆様には、本コンクールを機に更なる研鑽を積み、日本はもちろん、世界で活躍するトップアーティストとして、再びこの「とちぎ」の地で演奏していただけることを心から期待しております。

結びに、本コンクールの益々の御発展並びに本日御出場の皆様の御健勝と益々の御活躍を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。



コンセール・マロニエ 21 審査員長

音楽評論家 沼野雄司

コンクールとは、言い換えれば演奏の優劣を競う場なわけですが、この場合の「競う」とはどのようなことなのでしょう。

100メートル走であれば、10秒よりも9秒、9秒よりも8秒で走ったひとが勝者となります。その原理はきわめてシンプルであり、とりあえずは誰もが納得するはずで。しかし、ご存じのように、芸術の場合には、ある審査員にとっては100点でも、ある審査員にとっては0点という事態が生じ得ます。これほど極端でなくとも、審査員によって大きく判断が異なるのは、誰もが知っていることでしょう。

そう、煎じ詰めればきわめて恣意的な判断、もっといえばそれぞれの「好み」に左右されるのが芸術の審査です。とすれば、コンクールに意味などないのでしょうか？

わたしはそうは思いません。コンクールの意味や意義は、優劣の判断の結果そのものにあるのではなく、演奏するコンテストと審査する「他者」との摩擦やふれあいのなかに存在しているのだと考えています。演奏という行為が、自分や、自分の周りの狭いサークルのなかで自閉的に完結するのではなく、見ず知らずの他者の前にいやおうなくさらされて、その判断を突き付けられるという一種不条理な経験、そのなかにコンクールの真の意味があると思うのです。

「コンクール至上主義」、すなわちその順位が目的化してしまうこと、あるいはそこに過剰な意味を付すのは実に虚しいことです。コンクールがそのようなものでしかないならば、即刻廃止するべきでしょう。しかし重要なのは結果ではなく、その過程、あるいは経験なのです。

自分の音楽が他者にむけて啓かれること。そしてその他者に価値判断されることによって、広義の「対話」が生まれること。コンクールがもたらしてくれるのは、こうした体験にほかなりません。音楽がコミュニケーションだとすれば、コンクールは、音楽コミュニケーションのひとつの端的な形態ということができます。

もしもコンクールがそのようなかたちで為されるならば、コンテストにとっても、審査員にとっても、きわめて貴重で重要なものになることは言うまでもないでしょう。わたしは「コンセールマロニエ21」というコンクールが、そのような場であることを強く願ってやみません。

末筆ながらも、この企画にかかわるすべての方々に感謝と尊敬の念を表明して、挨拶に換えたいと思います。



演奏曲目・出場者プロフィール

チェロ

村上真璃南



Marina Murakami

D. ショスタコーヴィチ作曲

チェロ協奏曲 第1番 変ホ長調 Op.107 第2, 3, 4楽章

泉の森ジュニアチェロコンクール小学・中学・高校の部それぞれで金賞。

第30回日本クラシック音楽コンクールチェロ部門グランプリ。

2022年マグノリアホールにてソロリサイタル。

第15回ビバホールチェロコンクール第5位、ならびに聴衆賞を最年少で受賞。

姫路パルナソスホールにて池辺晋一郎のドヴォルザーク講座にて演奏。

第23回別府アルグリッチ音楽祭若手演奏家コンサート出演。

第77回全日本学生音楽コンクール大阪大会1位、全国大会1位、あわせて横浜市民（聴衆）賞、NHK会長賞受賞。

霧島国際音楽祭にて堤剛氏のマスタークラス受講。

現在、林裕、上森祥平、山崎伸子の各氏に師事。相愛高校音楽科特能奨学生、3年在学。

伴奏：鳥羽 亜矢子

ヴァイオリン

池田聖香



Seika Ikeda

E. ショーソン作曲

詩曲 Op.25

沖縄県出身。沖縄県立開邦高等学校、東京藝術大学音楽学部器楽科を経て、同大学大学院音楽研究科修士課程修了。

第22回KOBEL国際音楽コンクール弦楽器部門最優秀賞及び兵庫県教育委員会賞。

第26回宮日音楽コンクール弦楽器部門最優秀賞及び宮崎日日新聞社賞（グランプリ）。

第38回かながわ音楽コンクールヴァイオリン部門一般の部第3位。

第24回さくらびあ新人コンクールさくらびあ大賞（第1位）。

第19回、28回おきでんシュガーホール新人オーディション入選。

第26回姫路パルナソス音楽コンクール弦楽器部門第1位・国際ソロプチミスト姫路賞。

副賞として日本センチュリー交響楽団と共演。

これまで水野佐知香、千葉純子、野口千代光、小栗まち絵、篠崎史紀の各氏に師事。

伴奏：和田 華音

ヴィオラ

川邊宗一郎



Soichiro Kawabe

B. マルティヌー作曲

ラプソディー・コンチェルト

第13回秋吉台コンクール室内楽部門第1位。ベートーヴェン賞、併せて山口県知事賞受賞。

第32回日本クラシック音楽コンクールヴィオラ部門全国大会第3位（最高位）。他多数受賞。

桐朋室内楽演奏会、小澤国際室内楽アカデミー奥志賀、MMCJ、プロジェクトQ、ルボン音楽祭、ヴィオラスペース、宮崎国際音楽祭、木曾音楽祭等に出演参加。

第42回霧島音楽祭に奨学生として参加。

第34回松尾学術振興財団奨学生。

ヴィオラを佐々木亮氏に師事。

桐朋学園大学音楽学部をヴァイオリン科で卒業し、現在ヴィオラ科として東京藝術大学大学院修士課程1年生在籍。

伴奏：松田 龍

チェロ
小野 順平



Junpei Ono

A. ドヴォルザーク作曲

チェロ協奏曲 短調 Op.104 第1,3楽章

4歳よりチェロを始める。

ダヴィドフ国際チェロコンクール 15歳以下の部第3位。(ラトビア共和国)

第10回若き音楽家のためのチャイコフスキーコンクールセミファイナリスト。(カザフスタン)

第19回泉の森ジュニアチェロコンクール高校生以上の部銀賞(金賞なし)。

全日本学生音楽コンクール東京大会 大学生の部第3位。

14歳よりモスクワへ留学。チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院付属中央音楽学校にて学ぶ。

飛騨室内楽セミナー、MMCJ ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン 2022 に参加。

チェロを磯野正明、山崎伸子、キリル・ロージンの各氏に師事。

現在桐朋学園大学音楽学部3年在学中。

伴奏：大伏 啓太

ヴィオラ
栗林 衣李



Eri Kuribayashi

W. ウォルトン作曲

ヴィオラ協奏曲 第1,2楽章

東京藝術大学附属音楽高等学校、東京藝術大学音楽学部を経て、同大学院修士課程を修了。

ヴァイオリンを玉井菜採氏、植村太郎氏に、ヴィオラを市坪俊彦氏、佐々木亮氏に師事。

第14回チェコ音楽コンクール第2位。

第3回彩の国ストリングコンペティション最優秀賞。第22回 KOBE 国際音楽コンクール優秀賞。

第11回秋吉台音楽コンクール第1位。

第21回東京音楽コンクール第3位。

2021、2022年度宗次エンジェル基金奨学生。

2022年度紀尾井ホール管弦楽団シーズンメンバー。

伴奏：大伏 啓太

チェロ
宮之原 陽太



Yohta Miyanohara

E. エルガー作曲

チェロ協奏曲 短調 Op.85 第3,4楽章

4歳よりチェロを始める。

第17回セシリア国際音楽コンクール 第1位。

秋吉台音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位及び審査員特別賞を受賞。

小澤征爾音楽塾オーケストラとして「OMF 2024」に参加。その他に「CIMF 2022/ Festival Orchestra」「VIOLA SPACE 2023」「MMCJ 2023/2024」「AMA 2024」など多数の音楽祭やマスタークラスを受講。

現在、Quartet Iris のメンバーとして活動中。

サントリーホール室内楽アカデミー第8期フェロー。

これまでにチェロを佐藤満、松波恵子、山崎伸子の各氏に師事。室内楽を山崎伸子、銅銀久弥、菊地知也、池田菊衛、磯村和英、小森谷泉、入江一雄の各氏に師事。

現在、桐朋学園大学音楽学部4年在学中。

伴奏：大伏 啓太



審査員プロフィール

審査員長

沼野雄司



Yuji Numano / 音楽評論家

東京藝術大学大学院博士課程修了。博士（音楽学）。現在、桐朋学園大学教授、付属図書館長。2008年から2009年、および2020年から2021年にかけてハーバード大学客員研究員。著書に「トーキョー・シンコペーション 音楽表現の現在」(音楽之友社)、『音楽学への招待』(春秋社)、『現代音楽史 闘争しつづける芸術のゆくえ』(中公新書、第34回ミュージック・ペンクラブ賞)、『孤独な射手の肖像 エドガー・ヴァレーズとその時代』(春秋社、第29回吉田秀和賞)、『リグティ、ベリオ、ブーレーズ 前衛の終焉と現代音楽のゆくえ』『ファンダメンタルな楽曲分析入門』(いずれも音楽之友社)、『光の雅歌 西村朗の音楽』(春秋社、共著)、『日本戦後音楽史 上・下』(平凡社、共著)など。国内はもとより、アメリカ、中国、オランダ、リトアニア、ジョージア（グルジア）、アイルランドなど多数の国際学会で発表。また、読売新聞紙上で毎月演奏会批評及びCD批評を執筆する他、神奈川芸術文化財団芸術参与、サントリー音楽賞審査員、アフィニス文化財団専門委員、三井住友海上文化財団専門委員、せたがや文化財団評議員などの各種役員を務める。

審査員

久保田 巧



Takumi Kubota / ヴァイオリン

東京生まれ。外山滋、江藤俊哉らに師事。桐朋女子高等学校音楽科を経て、ウィーン国立音楽大学にてヴォルフガング・シュナイダーマンに師事。1983年フリッツ・クライスラー国際コンクール第2位、ミケランジェロ・アバド国際音楽コンクール第1位。84年ミュンヘン国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門で18年ぶりの1位として日本人初優勝。以来、サヴァリッシュ、ギーレンらの指揮のもとミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、バイエルン国立歌劇場管弦楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団など国内外の名だたるオーケストラと共演。88年、ウィーン・ピアノ四重奏団を結成。サイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管弦楽団にも数多く出演。2014年、前橋汀子、川本嘉子、原田禎夫と弦楽四重奏団を結成。CD録音も多く、「バッハ：無伴奏パルティータ全曲」は、「レコード芸術」誌で特選盤に選ばれている。2021年よりリサイタル・シリーズ「久保田巧 ヴァイオリンは歌う」を開催。桐朋学園大学教授として後進の指導にあたる他、子供を対象としたヴァイオリン・ワークショップも各地で好評を博している。

審査員

佐々木 亮



Ryo Sasaki / ヴィオラ

東京芸術大学卒業。1991年、現音室内楽コンクール第1位、「朝日現音賞」受賞。1992年、東京国際室内楽コンクール（民音）第2位、「ルフトハンザ賞」受賞。1992年秋より、ニューヨーク、ジュリアード音楽院入学。マルボロ音楽祭ではMusicians from Marlboro Tour のメンバーに3年連続で選ばれ全米各地にて演奏した他、2000年のマルボロ音楽祭50周年記念コンサートに出演。在米中リンカーンセンターでリサイタルの他ソロ、室内楽奏者として全米各地にて活動、内田光子、ヒラリー・ハーン、ナージャ・サレルノ・ソネンバーク、リン・ハレル、デイヴィッド・ソイヤール等と共演し、好評を博した。これまでに掛谷洋三、澤和樹、故田中千香士、故ドロシー・ディレイ、川崎雅夫の各氏に師事、また室内楽を故ジェイコブ・ラタイナー、故フェリックス・ガリミアの各氏に師事。2004年NHK交響楽団入団。2008年より首席奏者。また演奏活動の傍ら桐朋学園大学、東京芸術大学、東京音楽大学、洗足学園音楽大学にて後進の指導にも当たっている。

審査員

山崎 伸子



Nobuko Yamazaki / チェロ

桐朋学園大学音楽学部卒業。齋藤秀雄、レイヌ・フラショー、堤剛、安田謙一郎、藤原真理各氏に師事。第1回民音室内楽コンクール第1位、第44回日本音楽コンクール第1位。文化庁派遣研修員として2年間ジュネーヴでピエール・フルニエ氏に師事。帰国後は、日本国内の主要オーケストラとの共演、リサイタル、室内楽など幅広く活躍し、イギリス室内、スイス・ロマンド管弦楽団、バンベルグ交響楽団との共演や、チェロ連続リサイタルなどで高い評価を得ている。2007年より10年間にわたりチェロ・ソナタ・シリーズを開催し、第4回のライブCDがレコードアカデミー賞（室内楽部門）を受賞。教育者としても精力的に活動を続け、2017年からはフィリアホールで「未来に繋ぐ室内楽」と題し、若手演奏家の室内楽シリーズをプロデュースしている。村松賞、グローバル音楽奨励賞、東燃ゼネラル音楽奨励賞を受賞。現在、桐朋学園特任教授、東京藝術大学名誉教授。

審査員

永島 義男



Yoshio Nagashima / コントラバス

東京藝術大学卒業。学内にて安宅賞を受ける。

第4回中島健蔵音楽賞を受ける。

サイトウキネンオーケストラ、水戸室内管弦楽団、キオイシンフォニエッタ、アンサンブルofトウキョウ、などでも活躍する。

これまでにマン島国際（イギリス）、ポッテジーニ国際（イタリア）、泉の森、コンセールマロニエ、秋吉台の各コンクールの審査員を務める。

2015年東京藝術大学より論文博士号を授与される。

東京音楽大学講師、中国音楽学院（北京市）、瀋陽音楽学院（瀋陽市）各客員教授、東京藝術大学名誉教授。

第28回コンセール・マロニエ21 [弦楽器部門] 応募・審査状況 (単位/名)

楽器	申込者	動画審査合格者	オーディション合格者
ヴァイオリン	5	4	1
ヴィオラ	7	7	2
チェロ	7	6	3
コントラバス	6	4	0
計	25	21	6

結果発表・表彰式

16:05~16:35 (予定)

感動の瞬間に是非あなたもお立ち会いください。

後日、栃木県総合文化センターホームページでも発表いたします。

URL <https://www.sobun-tochigi.jp/>



～コンセール・マロニエ21は若い音楽家を支援します～

とちぎ未来づくり財団主催事業への出演 (2024年度)

9月15日



栃木県交響楽団特別演奏会 第27回(ピアノ)第1位 鴨川孟平



5・6月、9月～11月



学校訪問演奏会
第19回(声楽)第1位 高橋洋介

1月26日 開催予定



フレッシュアーティスト ガラ・コンサート
今回第1位受賞者出演予定
(2018年度公演のチラシ)

『コンセール・マロニエ21』は、広く参加者を募ります(在住地・国籍は問いません)。

第29回

2025年 コンセール・マロニエ21のお知らせ

- | | |
|---|--|
| <p>I 対象 金管楽器(ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバ)</p> <p>II 日程</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事前審査受付 2025年5月～6月 ●動画審査(第一次) 2025年7月上旬 ●オーディション(第二次) 2025年8月30日(土) ●本選・表彰式 2025年11月1日(土) <p>III 会場 栃木県総合文化センターメインホール
※オーディション・本選のみ(動画審査は非公開)</p> | <p>IV 入賞者 支援 とちぎ未来づくり財団が主催する各種演奏会への出演機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入賞記念ガラ・コンサート ・栃木県交響楽団特別演奏会のソリストとして出演 ・ランチタイムコンサート、リサイタル ほか <p style="text-align: right; color: #e91e63;">詳細は2025年3月頃発表の予定です。</p> |
|---|--|

上記の開催概要は都合により変更となる場合があります。

●お問い合わせ●

公益財団法人とちぎ未来づくり財団 文化振興課
〒320-8530 宇都宮市本町1-8 栃木県総合文化センター内
☎028(643)1010 メール tmf@tmf.or.jp

※「コンセール・マロニエ21」は5部門(声楽・ピアノ・弦楽器・金管楽器・木管楽器)を順次開催しています。

—— 栃木県は若い演奏家を支援します ——

主催 公益財団法人とちぎ未来づくり財団・栃木県

後援

- 栃木県教育委員会 ●下野新聞社 ●朝日新聞宇都宮総局
- 読売新聞宇都宮支局 ●毎日新聞宇都宮支局
- 産経新聞社宇都宮支局 ●日本経済新聞社宇都宮支局
- 東京新聞宇都宮支局 ●共同通信社宇都宮支局
- NHK宇都宮放送局 ●栃木放送 ●エフエム栃木 ●とちぎテレビ

